

教 科	科 目 名	単 位 数	学 年	学科またはコース	履 修
農 業	作 物	2	2	生物生産科	選択

科目のねらい	1年次に学んだ『農業と環境』の深化・発展を目的とし、作物（水稻）の栽培・経営に関する基本的・体系的な技術と知識を身につける。 作物の栽培技術を身につけることはもちろん、農業の多面的機能や、食文化、命の尊さと感謝の気持ちなど『食育』にも重点を置く。
--------	---

使用教材など	高等学校農業教科用『作物』実教出版
--------	-------------------

期	月	時数	学 習 内 容	学習のポイント
一 学 期	4	2 3	水稻栽培に関わる春作業について 播種・育苗・田植え、本田準備等	1年次に学んだ水稻栽培に関する基礎知識や基礎技術を復習。更に専門的な知識へと深化させる。 イネ以外の作物についても触れ、自分と食の繋がりについて考える。
	5		初期の本田管理	
	6		水の役割と管理の重要性	
	7		イネ以外の作物について ダイズ（枝豆）、ラッカセイ 等	
二 学 期	9	2 8	中期～後期の水田管理 除草管理・肥料管理（追肥）	イネの栽培管理を通して、植物の特性について学習する。 夏の過酷な作業を体験し、収穫の喜びと感謝の気持ちに繋げる。 生物の多様性と農業の多面的機能から、農業の意義と国の政策について学習を広げる。
	10		収量構成の4要素	
	11		収量診断の方法	
	12		生物の多様性について 農業の多面的機能について	
三 学 期	1	1 1	【世界の食糧自給】	世界の食糧自給から、飽食社会日本について考える。 栽培技術だけでなく、改良技術や保存技術など幅広く学ぶ。
	2		【稲作を取り巻く新しい技術】	
	3			

評価の観点				
観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：技能	e：知識・理解
観点の趣旨	作物の生産と経営に関心をもち、関連する知識や技術を身に付けようとする。	作物生産や経営に関する課題を発見し、調査・観察・記録・分析と考察を通して、それらについての考えをまとめ、話し合ったり、発表することができる。	体験的・継続的な生産活動を通して、作業の目的や意義を理解し、適切な作業ができる。 プロジェクトの方法と進め方について理解し、調査や記録を適切に行える。	作物生産や経営に関する実践的な知識や技術を身に付けている。 地域農業に適した作物生産と経営の方法について理解している。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 (ノート、ワークシート等)	行動の観察 (発表等のパフォーマンスの評価)	記述の確認及び分析 (ワークシート、)	記述の確認 (ノート、ワークシート等) 定期テスト 小テスト

評価項目・学習にあたって・評価点		
①筆記試験	座学及び実習で得た知識がきちんと身についているか。	60～70点
②実習	積極的に動くことが出来る。仲間と協力して真面目に取り組める。 作業内容を理解できている。	30～40点
③課題提出	座学のノート、生育調査等観察の記録、プロジェクト学習のまとめ等	